

令和 3 年 4 月 30 日現在

機関番号：23103

研究種目：基盤研究(B)（一般）

研究期間：2018～2020

課題番号：18H00622

研究課題名（和文）判断力養成としての美術教育の歴史的・哲学的・実践的研究

研究課題名（英文）Historical, Philosophical, and Practical Research on Art Education as the Formation of Judgement of

研究代表者

児美川 佳代子（小松佳代子）（Komikawa(Komatsu), Kayoko）

長岡造形大学・造形研究科・准教授

研究者番号：50292800

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 8,400,000 円

研究成果の概要（和文）：本研究は、技能修得や自己表現を中心に考えられてきた美術教育を思考と探究による判断力養成の過程として捉え直すことを目的としてきた。判断力に着目して美術教育の歴史を見直し、美術制作過程において働く芸術的知性とは何かを考察した。同時に美術制作者が研究に参加して、制作過程で行っている思考や判断を実践的に明らかにした。合計7回の研究会、2回の展覧会、最終年度には論文と展覧会の記録、批評を掲載した報告書を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

学術的意義としては、美術教育を歴史・哲学・実践的観点という広い視野から捉え直したこと、美術制作者の探究と学校における美術教育とを分断せずに捉えることで、美術教育の本質的意義を考察したことにある。社会的意義としては、2回の展覧会と関連したワークショップによって、美術制作者が制作において働かせている思考や探究を社会に発信したこと、また最終報告書に展覧会の記録とともに制作者自身による論文を掲載したこと、美術制作に働く芸術的知性の一端を明らかにしたことにある。

研究成果の概要（英文）：This project aimed to rethink art education as forming judgement rather than learning skills or self expression. We researched the history of art education focusing on the formation of judgement and considered the artistic intelligence in the process of creative practice. In addition to it, some artists who have joined our research group clarified their thinking and inquiry practically. We held seven research meetings and two exhibitions. Lastly we edited the final research report consists of articles and the archive of the above exhibitions.

研究分野：教育哲学

キーワード：判断力 芸術的知性 Arts-Based Research

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

1. 研究開始当初の背景

美術教育は、欧米でも日本でも戦後直後は自己表現を重視する創造主義的な考え方が中心であったが、1960年代の「教育の現代化」以降アメリカで先駆的に見られたカリキュラム改革や1980年代のDBAE(Discipline Based Art Education: 学問に基づく美術教育)などにおいて、美的シンボルを認識論的に捉える見方が出てきた。しかし日本においてそうした見方は定着せず、美術教育の目的も美術を通じた内面形成なのか、知識や技能の習得か、美的判断力の涵養なのか不明瞭なままである。明治以来の技能教育、創造美術運動以来の自己表現、あるいは1970年代に導入された感覚重視の「造形遊び」などが重層的にカリキュラム化され、美術教育を総体として捉える視点が欠けている。こうした問題が解決できていないゆえに、図工・美術科の時間数が削減傾向にある状況に対して、美術教育の必要性について説得力のある提案を打ち出せずにいる。美術教育を自己表現と内面形成と位置づけるならそれは美術でなくても可能だという議論となり、手と眼の訓練による技能習得と位置づけるならそのような技能の今日的な必要性が問われてしまう。他方、生涯にわたって美術を愛好するための知識の獲得を専らとすると制作活動が伴わない。美術教育の意義はどこにあり、美術によってしかかなされない判断力養成とはいかなるものかを考えるには、教科教育だけではなく、美術家の創造活動に働く思考と探究の過程にも目を向け、美術の学びについて総合的に考察する必要があると考えたことが本研究開始時の背景である。

2. 研究の目的

本研究は、上記のような美術教育をめぐる問題状況に対して、これまでの美術教育観とは異なり、判断力を養成するものとして美術教育を位置づけ直すことを目的とする。そのために「美術教育によって固有に得られる判断力とはどのようなものか」という問いを設定した。具体的には(1)美術教育は感性だけでなく美術に固有の知性を涵養するという意味で判断力養成こそが重要ではないのか。(2)自己表現と感性教育に対して知性的側面が打ち出された歴史がありながら、この考えが日本の美術教育に定着しなかったのはなぜか。(3)美術の鑑賞のみならず制作行為において判断力はいかに働くのか。(4)判断力養成としての美術教育の実践とはどのようなものであるのかといった仮説的問いの下に研究を進めた。

3. 研究の方法

これまで美術教育研究は、教科教育、芸術学や教育哲学などの理論研究、美術家による制作研究という領域で個別に行われており、それぞれに蓄積はあるものの相互に十分な研究の活性化がなされているとは言えない状況にある。本研究では美術教育を総体として考察する学問的方法論を見いだすために、この別々になされてきた美術の教育・理論・制作の研究を横断しながら研究を進めてきた。

研究の視点として、歴史的・哲学的・実践的という三つの柱を立てた。歴史的研究としては、日本の美術教育の専門家と、ドイツ美術史の専門家を研究分担者に迎え、さらに研究協力者の助力も仰ぎながら、美術教育史のなかに判断力養成の側面を見いだしていくことを目指した。哲学的研究としては、カントの『判断力批判』をはじめとして、美的享受を中心とした美的人間形成論を参照しつつも、美術家の制作行為の実践的態様から美術教育の意義について捉えることを目指した。複数の美術制作者に研究に加わってもらうことで、美術制作に働く思考と探究のプロセス、鑑賞と制作を貫く美術に固有の知性から、美術教育の根源的意義を明らかにするべく研究を進めてきた。こうした理論的な研究に加えて、本研究の特徴的な方法論として、実践的研究がある。日本ではほとんど知られていないが、世界の美術教育研究において大きな趨勢になりつつある「芸術に基づく研究(Arts-Based Research : 以下 ABR)」の動向を追うとともに、美術制作者に研究協力を仰ぎ、ABRの実践として理論研究と並行した作品制作とはどのようなものなのかを実践的に考察した。

4. 研究成果

研究成果としては、複数の学問分野(美術教育、美術史、教育哲学など)にまたがる研究者と、美術制作者とが集まることで、美術教育の多様な可能性について議論することができたことが最も大きい。3年間の研究期間の間に、広く呼びかけて7回の大きな研究会を開催し、各回に30名から40名ほどの参加者を得た。これと並行して、特に美術制作者を中心として少人数での研究会を7回ほど行い、実践的な研究を進めてきた。2019年3月と2020年2月に行った二つの展覧会(ABR on ABR 展、ART=Research 展)は、美術制作における知的な探究を理論的な研究のみならず実践的に作品として提示する、独創的な試みであり、展示作品をめぐってさらにまた理論的な議論と、相互批評などを行うことで、美術制作と理論研究とを往還する新たな研究方法論の開発にもなった。本研究で考察したきたことは、内外の学会で各研究者が発表してきた。とりわけ2019年カナダで行われた国際美術教育学会には、研究代表者及び研究分担者2名が参加し、展示発表、口頭発表、ワークショップなど様々な形での発表を行った。最終年度には、研究代表

者及び研究分担者5名と、研究協力者として研究会、展覧会に参加してくれた4人の美術制作者の論文、2回の展覧会と関連するワークショップの記録、それぞれの作品をめぐる相互批評、研究代表者による批評などを含んだ研究報告書を作成した。美術教育、美術史、教育哲学を専門とする研究者がそれぞれの立場から判断力養成としての美術教育について考察し、同時に美術制作者が自らの作品制作のプロセスにおいて思考したことを論文として記述することで、これまでの美術教育の研究のあり方を問い直すことにもつながる。この報告書の発刊も大きな研究成果である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計19件（うち査読付論文 2件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 11件）

1. 著者名 Komatsu Kayoko	4. 巻 19
2. 論文標題 Jeremy Bentham and “Citizenship Education”	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Revue d'etudes benthamiennes	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.4000/etudes-benthamiennes.6300	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 小松佳代子・櫻井あすみ	4. 巻 17
2. 論文標題 美術制作におけるアトラス的な知 空間と時間のレイヤー	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 長岡造形大学紀要	6. 最初と最後の頁 6-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -
1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 -
2. 論文標題 What Kind of Sociality Do Pre-service Teachers Discover Through Photograph Taking and Dialogue?	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SPECIAL ISSUE InSEA Congress 2018: Scientific and Social Interventions in Art Education	6. 最初と最後の頁 805-831
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -
1. 著者名 Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Koichi Kasahara, Satoshi Ikeda, Satoshi Ikeda	4. 巻 -
2. 論文標題 Diversity × Color: Understanding Cultural Diversity	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 SPECIAL ISSUE InSEA Congress 2018: Scientific and Social Interventions in Art Education	6. 最初と最後の頁 1311-1326
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 Koichi Kasahara	4. 巻 -
2. 論文標題 Significant In/Sight Sustaining Myself: A/r/tographic Inquiry with Walking and Mapping Methodologies	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 Imaging Social Innovation: Expanding the Social Role of Art Education, 2019 SAEK International Conference	6. 最初と最後の頁 188-196
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一, 真木千壽子, 鉄矢悦朗, 加山総子, 大塚菜々美, 千野希帆子, 白神瑛子, 谷黒杏花, 肥前新菜	4. 巻 71
2. 論文標題 保育園と大学との連携造形活動による保育の質的深化の試み : 保育者・大学教員・大学院生・保護者の学び合いの実践構造について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 79-93
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小室明久, 笠原広一, 鉄矢悦朗, 真木千壽子, 加山総子	4. 巻 71
2. 論文標題 子ども理解を深める親子ワークショップの実践 : 学芸の森保育園での遊具を使ったワークショップ実践の考察に基づいて	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 69-78
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 41
2. 論文標題 美術教育学における贈与交換システムの複合的構造 参照源の構造、及び学習者間交換	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 85-95
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 -
2. 論文標題 山本県の生いたち、そして国柱会	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 農民美術・児童自由画100年展	6. 最初と最後の頁 114-117
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 79
2. 論文標題 大正期・昭和戦前期中等学校の図画教員10 福島県	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一寸	6. 最初と最後の頁 50-66
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 80
2. 論文標題 大正期・昭和戦前期中等学校の図画教員11 岐阜県	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 一寸	6. 最初と最後の頁 54-68
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 81
2. 論文標題 山本県研究拾遺 村山谷助、桜井寅吉のことなど	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 一寸	6. 最初と最後の頁 50-57
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 生井亮司・榎田二三子、義永睦子	4. 巻 7
2. 論文標題 子育て期の保護者における哲学対話の意義	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 武蔵野大学教育学論集	6. 最初と最後の頁 91-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 小松佳代子, 橋本大輔	4. 巻 16
2. 論文標題 新しい実在論の理論的射程と美術の探究	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長岡造形大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 6-13
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 渡邊誠介, 板垣順平, 小松佳代子	4. 巻 16
2. 論文標題 (試論) 長岡造形大学大学院研究方法論の模索	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 長岡造形大学研究紀要	6. 最初と最後の頁 118-123
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 68
2. 論文標題 大正・昭和戦前期全国中等学校図が教員の総覧的研究 (6) 東京府内私立学校	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 茨城大学紀要 (教育科学)	6. 最初と最後の頁 117-137
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている (また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 金子一夫	4. 巻 40
2. 論文標題 贈与交換システム論的美術教育学の整備 要素の構造、参照源そしてシステム作動	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 美術教育学	6. 最初と最後の頁 145-156
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

1. 著者名 佐藤直樹	4. 巻 1
2. 論文標題 1900年頃の絵画と複製技術 ヘレン・シャルフベックと写真	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 DNP文化振興財団 学術研究助成紀要	6. 最初と最後の頁 92-102
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

1. 著者名 笠原広一	4. 巻 70
2. 論文標題 5th Conference on Arts-Based Research and Artistic ResearchにみるArts-Based Researchの国際的な研究動向	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 東京学芸大学紀要 芸術・スポーツ科学系	6. 最初と最後の頁 45-64
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計29件(うち招待講演 17件/うち国際学会 14件)

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 知性を育む美術教育
3. 学会等名 上伊那美術教育研究会総会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1 . 発表者名 Kayoko Komatsu
2 . 発表標題 Arts-Based Research through the Making of an Image Atlas: Circulation of Appreciation and Creation
3 . 学会等名 International Society for Education Through Art, InSEA2019 World Congress, (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Chihiro Tetsuka, Maho Sato, Satoshi Ikeda, Kazuji Mogi, Kayoko Komatsu
2 . 発表標題 The Color Arrangement Workshop: as a Method of A/r/tography
3 . 学会等名 International Society for Education Through Art, InSEA2019 World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama, Kaho Kakizaki, Chihiro Tetsuko, Maho Sato
2 . 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking
3 . 学会等名 International Society for Education Through Art, InSEA2019 World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1 . 発表者名 Koichi Kasahara, Toshio Ishii, Takashi Takao, Satoshi Ikeda, Kayoko Komatsu, Kazuji Mogi, Minako Kayama, Kaho Kakizaki, Chihiro Tetsuko, Maho Sato
2 . 発表標題 A/r/tographic Inquiry through Kumano Kodo Pilgrimage Trails Walking. Mapping A/r/tography Retreat
3 . 学会等名 International Society for Education Through Art, InSEA2019 World Congress (国際学会)
4 . 発表年 2019年

1. 発表者名 小林俊介, 伊藤香, 高橋美紀, 井上七緒, 武田夏実, 工藤美月, 佐藤美咲, 張崎正裕, 石沢恵理, 笠原広一
2. 発表標題 造形・製作活動が育む力
3. 学会等名 日本乳幼児教育学会第29回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 アートがもたらす知性 ABRの実践研究
3. 学会等名 日本教育心理学会第61回総会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Significant In/Sight Sustaining Myself: A/r/tographic Inquiry with Walking and Mapping Methodologies
3. 学会等名 2019 SAEK International Conference (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Walking in Koyasan the Holy Site: The Creation of Practices to Connect with Peace and Fate in Everyday Life
3. 学会等名 The 2nd A/r/tography Asian Symposium (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nicole Lee and Rita Irwin, Alexandra Lasczik, Joaquin Roldan and Ricardo Marin, Daniel Barney, Jun Hu, Valerie Triggs and Michele Sorenson, Anita Sinner, Koichi Kasahara and Rocio Lara-Osuna
2. 発表標題 Mapping A/r/tography through Walking Methodologies Part 1
3. 学会等名 International Society for Education Through Art, InSEA2019 World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Nicole Lee, Rita Irwin, Alexandra Lasczik, Jun Hu, Koichi Kasahara, Joaquin Rodan, Ricardo Marin Videll, Rocio Lara-Osuna, Anita Sinner, Valerie Triggs, Michele Sorensen and Daniel Barney
2. 発表標題 Mapping A/r/tography through Walking Methodologies Part 2
3. 学会等名 International Society for Education Through Art, InSEA2019 World Congress (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Koichi KasaharaKoichi Kasahara
2. 発表標題 Present and future places of arts-based research within the current educational reform in Japan
3. 学会等名 The 6th Conference on Arts-Based Research and Artistic Research (招待講演) (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 笠原広一, 真木千壽子
2. 発表標題 大学との連携造形活動と園内研修の取り組み 1 - 保育者の学びと保育実践への展開可能性 -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 真木千壽子, 笠原広一
2. 発表標題 大学との連携造形活動と園内研修の取り組み 2 - 人材育成と組織づくりの視点から -
3. 学会等名 日本保育学会第72回大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子一夫
2. 発表標題 戦前期全国中等学校図画教員の総覧的研究 岐阜県
3. 学会等名 第58回大学美術教育学会岐阜大会
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子一夫
2. 発表標題 山本鼎の生いたち 新資料による解明、そして国柱会のこと
3. 学会等名 明治美術学会（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 金子一夫
2. 発表標題 山本鼎の生いたち、そして国柱会
3. 学会等名 講演会：農民美術児童自由画運動と美術教育（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤直樹
2. 発表標題 アンリ・ヴァン・デ・ヴェルデとドイツ-ベルギーから来たモダニズムの預言者
3. 学会等名 国際シンポジウム「ドイツ・モダニズムの黎明期とベルリン」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤直樹
2. 発表標題 ヘレン・シャルフベックと写真 パーン=ジョーンズ作品の複製写真による影響
3. 学会等名 モダン・ウーマン展記念講演会(招待講演)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Naoki Sato
2. 発表標題 Die Begriffe 'Shin-Gyo-So' in der japanischen Kunst. Versuch einer treffenden Übertragung, Übersetzen
3. 学会等名 Workshop zum Auftakt einer internationalen Kooperation(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤直樹
2. 発表標題 ペーター・フォン・コルネリウスによる『ファウスト』の挿絵について
3. 学会等名 国際シンポジウム「ファウストの文化史」(招待講演)(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 佐藤直樹
2. 発表標題 ヴィンケルマン のアポロ主義とラファエロ主義
3. 学会等名 シンポジウム「ローマの誘惑：西洋美術史におけるローマの役割」（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 生井亮司
2. 発表標題 子どもの造形活動と「弱さ」について
3. 学会等名 武蔵野大学こども発達学科リカレント企画シンポジウム（招待講演）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Ryoji NAMAI , Fumiko ENOKITA, Mutsuko YOSHINAGA
2. 発表標題 Change in consciousness and notion of happiness by philosophical dialogue (parenting philosophy cafe) for parents during child rearing
3. 学会等名 世界幼児教育・保育機構アジア太平洋地域大会（国際学会）
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 小松佳代子
2. 発表標題 美術教育の可能性 鑑賞と制作の往還に着目して
3. 学会等名 上伊那美術教育研究会総会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤直樹
2. 発表標題 「古典」としての中国芸術 茶の湯における真行草
3. 学会等名 ヘルダー学会春季研究発表会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 佐藤直樹
2. 発表標題 ヴィンケルマンの古代受容とドイツ古典主義の形成
3. 学会等名 名古屋大学人文学研究科附属人類文化遺産テキスト研究センター主催シンポジウム「西洋美術史における 古典 と 古典主義」（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 笠原広一
2. 発表標題 Arts Based Researchによる芸術を基盤とした探究型学習理論の構築に向けた取り組み：学部大学院での試行的実践
3. 学会等名 福岡教育大学研究交流イベント講演会（招待講演）
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Koichi Kasahara
2. 発表標題 Art Education in Japan and A/r/tographic Inquiry at Master 's level Perspectives from Tokyo Gakugei University
3. 学会等名 Sharing day with Tokyo Gakugei University visitors. Hosted by the Arts-Creativity-Education, Monash University（招待講演） （国際学会）
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計7件

1. 著者名 佐藤直樹	4. 発行年 2019年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 416
3. 書名 芸術愛好家たちの夢	

1. 著者名 佐藤 直樹	4. 発行年 2020年
2. 出版社 平凡社	5. 総ページ数 128
3. 書名 ヴィルヘルム・ハマスホイ 沈黙の絵画	

1. 著者名 笠原広一 編著	4. 発行年 2020年
2. 出版社 東京学芸大学出版会	5. 総ページ数 222
3. 書名 アートがひらく保育と子ども理解：多様な子どもの姿と表現の共有を目指して	

1. 著者名 小田原のどか, 小谷元彦, 山田亮太, 平瀬礼太, 千葉慶, 椎名則明, 迫内祐司, 金井直, 白川昌生, 金子一夫, 高橋幸次, 田中修二, 青木野枝	4. 発行年 2018年
2. 出版社 トポフィル	5. 総ページ数 502
3. 書名 彫刻1	

1. 著者名 美術教育学叢書企画編集委員会編 責任編集金子一夫	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ブックウェイ	5. 総ページ数 233
3. 書名 美術教育学叢書 2 美術教育学の歴史から	

1. 著者名 喜多崎親編 喜多崎親, 佐藤直樹, 尾関幸, 山口恵里子, 堀川麗子, 松原知生, 甲斐教行	4. 発行年 2018年
2. 出版社 三元社	5. 総ページ数 302
3. 書名 前ラファエッロ主義	

1. 著者名 笠原広一, リタ・L・アーウィン, ステファニー・スプリンゲイほか	4. 発行年 2019年
2. 出版社 ブックウェイ	5. 総ページ数 393
3. 書名 アートグラフィー：芸術家/研究者/教育者のあいだを生きる探求の技法	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	金子 一夫 (Kaneko Kazuo) (70114014)	茨城大学・教育学部・名誉教授 (12101)	
研究分担者	佐藤 直樹 (Sato Naoki) (60260006)	東京藝術大学・美術学部・准教授 (12606)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究分担者	笠原 広一 (Kasahara Koichi) (50388188)	東京学芸大学・教育学部・准教授 (12604)	
研究分担者	生井 亮司 (Namai Ryoji) (20584808)	武蔵野大学・教育学部・教授 (32680)	

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	竹本 悠太郎 (Takemoto Yutaro)	長岡造形大学・造形研究科・リサーチアシスタント (23103)	
研究協力者	坂井 友美 (Sakai Tomomi)	長岡造形大学・造形研究科・修士課程大学院生 / 職員 (23103)	
研究協力者	櫻井 あずみ (Sakurai Asumi)	川口短期大学・非常勤講師 (42414)	
研究協力者	三好 風太 (Miyoshi Futa)	横浜美術大学・助手 (32725)	
研究協力者	橋本 大輔 (Hashimoto Daisuke)	桜美林大学・助手 (32605)	

6. 研究組織（つづき）

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
研究協力者	菊地 匠 (Kikuchi Takumi)		
研究協力者	齋藤 功司 (Saito Koji)		
研究協力者	野村 紀子 (Nomura Noriko)		
研究協力者	山本 玲央 (Yamamoto Reo)	桜美林大学・助手 (32605)	
研究協力者	長尾 幸治 (Nagao Yukiharu) (50782364)	横浜美術大学・助教 (32725)	

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計1件

国際研究集会	開催年 2019年～2019年
--------	--------------------

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------